

浅川町 橋梁長寿命化修繕計画



浅川橋

令和8年3月

福島県石川郡浅川町

— 目 次 —

I. 様式1-1

※ () は「道路メンテナンス事業補助制度」
における補助要件

1. 長寿命化修繕計画の目的	1	—国土交通省— インフラ長寿命化 基本計画における記載事項
2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁	3	1. 対象施設
3. 健全度の把握及び日常的な 維持管理に関する基本方針 (・老朽化対策における基本方針) (・新技術等の活用方針)	5	2. 計画期間
4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替え に係る費用の縮減に関する基本的な方針 (・費用の縮減に関する具体的な方針)	7	3. 対策の優先順位の考え方 4. 個別施設の状態等
5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期 及び修繕内容・時期又は架替え時期 (・構造物の諸元・直近の点検結果及び次回点検年度) (・対策内容・対策の着手、完了予定年度) (・対策に係る全体概算事業費)	13	5. 対策内容と実施時期 6. 対策費用
6. 長寿命化修繕計画による効果	13	
7. 計画策定担当部署及び意見聴取した 学識経験者等の専門知識を有する者	14	

II. 様式1-2

対象橋梁ごとの概ねの次回点検年度
及び対策内容・着手時期又は架替え時期

III. 優先順位一覧表

1. 長寿命化修繕計画の目的

1) 浅川町の現状

福島県中通り南部に位置する浅川町は、人口5,646人（2026年3月3日現在）、面積37.43平方kmの町です。

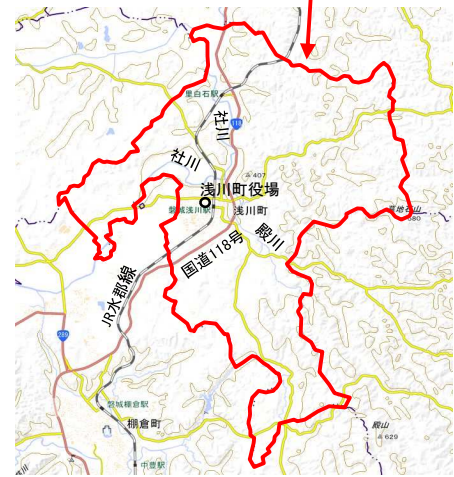
町の東側は阿武隈高地に連なる丘陵地、西側は概ね平坦な地形となっており、西から北東に向かって流れる阿武隈川支流の社川に、南東から流れる殿川が合流しています。

気候は中通り地方に特有の内陸性気候で、夏季は蒸し暑く、冬季の積雪は比較的少ないものの、町中心部の標高が300mを超えていることから寒さは厳しく、凍害による橋梁への影響や、春先の晩霜が農作物に影響を与えることがあります。

町には国道118号と7本の県道が通り、町道は総延長114.06kmが整備され、生活道路や農耕用の道路として利用されています。浅川町には商業施設なども多く立地していることから、近隣の自治体からの利用も多くなっています。

町が管理する橋梁は31橋あり、社川に架かる40m以上の橋梁を5橋有していることや、橋梁数が少なく、1橋当たりの人口が182人と比較的多いことが特徴となっています。また、竣工後40年以上経過している橋梁は22橋あり、うち11橋は50年以上を経過しています。町では橋梁点検の結果をふまえて、橋梁補修工事を積極的に実施しています。

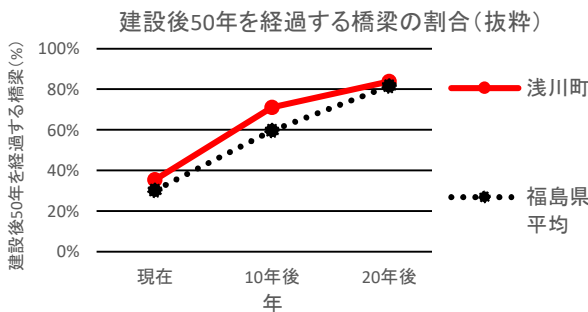
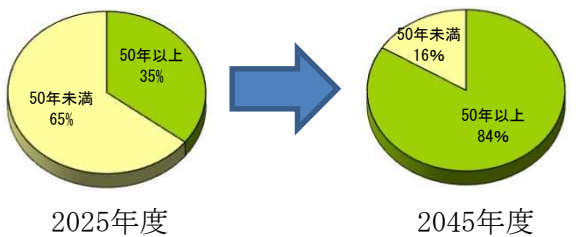
福島県内市町村位置図



2) 背景

浅川町の管理する橋梁31橋の中で、2025年時点で建設後50年以上を経過する橋梁は全体の約35%を占めており、10年後の2035年には71%、20年後の2045年には84%に増加します。

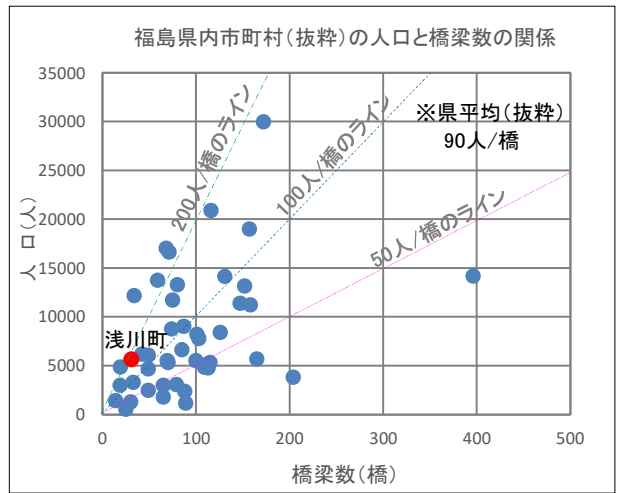
これらの高齢化を迎える橋梁群に対して、従来の対症療法型の維持管理を続けた場合、橋梁の修繕・架け替えに要する費用が増大となることが懸念されます。



近隣町村との比較

町村名	面積 (km ²)	人口 (人)	人口密度 (人/km ²)	橋梁数 (橋)	橋梁の密度 (橋/km ²)	1橋当たりの人口 (人/橋)
浅川町	37.43	5,646	150.8	31	0.83	182.13
A町	115.7	13,281	114.8	131	1.13	101.38
B町	163.3	4,377	26.8	113	0.69	38.73
C村	46.7	5,916	126.8	42	0.90	140.86

人口は2026年2・3月現在

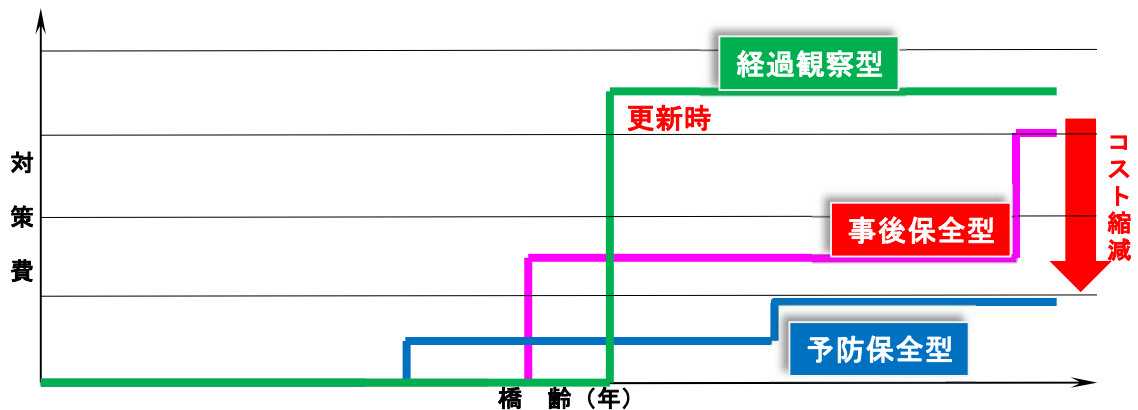
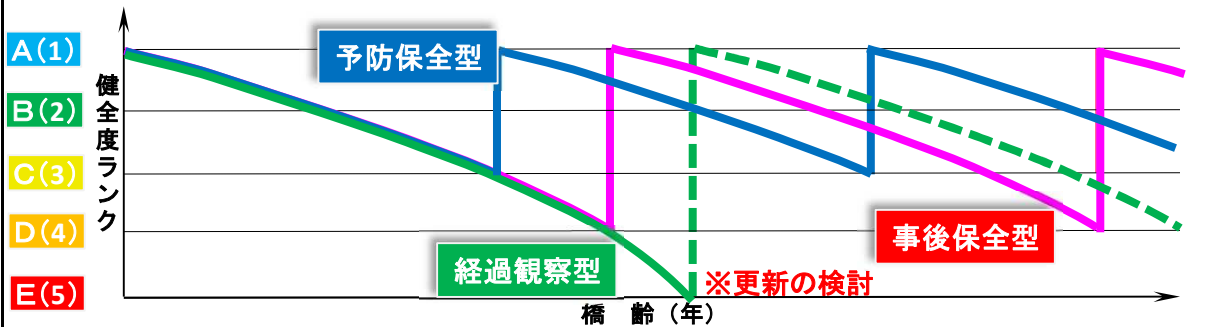


3) 目的

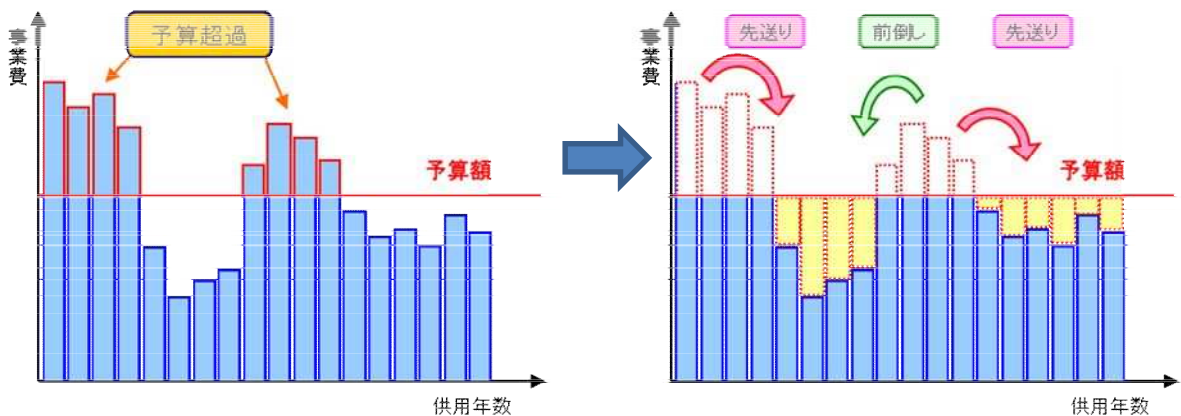
このような背景から、より計画的な橋梁の維持管理を行い、限られた財源の中で効率的に橋梁を維持していくための取り組みが不可欠となります。

将来にわたり橋梁を保全・維持するためには、費用のかかる架替えが一時期に集中しないように長寿命化修繕計画を策定して、財政負担を低減・平準化する必要があります。コスト削減のためには、従来の事後保全型（対症療法型）から、“損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う”予防保全型へ転換を図り、橋梁の寿命を延ばす必要があります。

そこで浅川町では、将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図るために、橋梁長寿命化修繕計画を策定します。



対策シナリオのイメージ

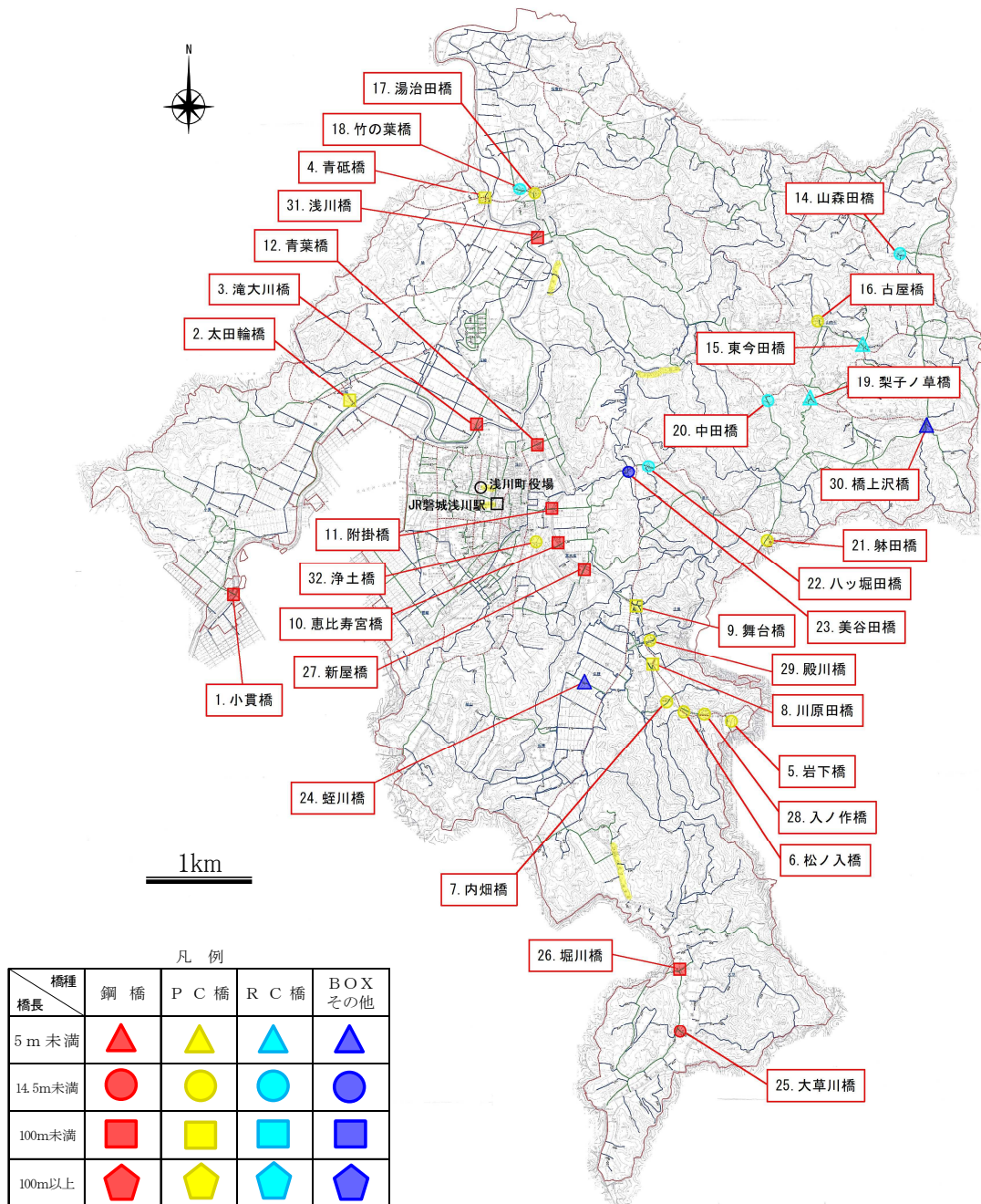


予算平準化のイメージ

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁
(1. 対象施設)

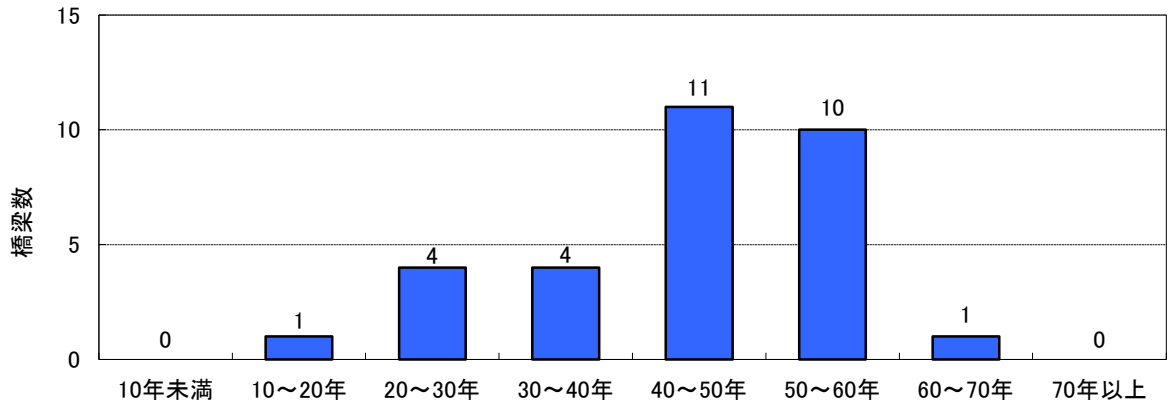
	町道 1級	町道 2級	町道 その他	合計
全管理橋梁数	3	6	22	31
うち計画の対象橋梁数	3	6	22	31
うちこれまでの計画策定橋梁数	0	0	0	0
うち2025年度計画策定橋梁数	3	6	22	31

※長寿命化修繕計画の対象：浅川町が管理する橋長2.0m以上の橋梁全31橋を対象とします。
(2024年度、2025年度に定期点検を実施した31橋を対象)



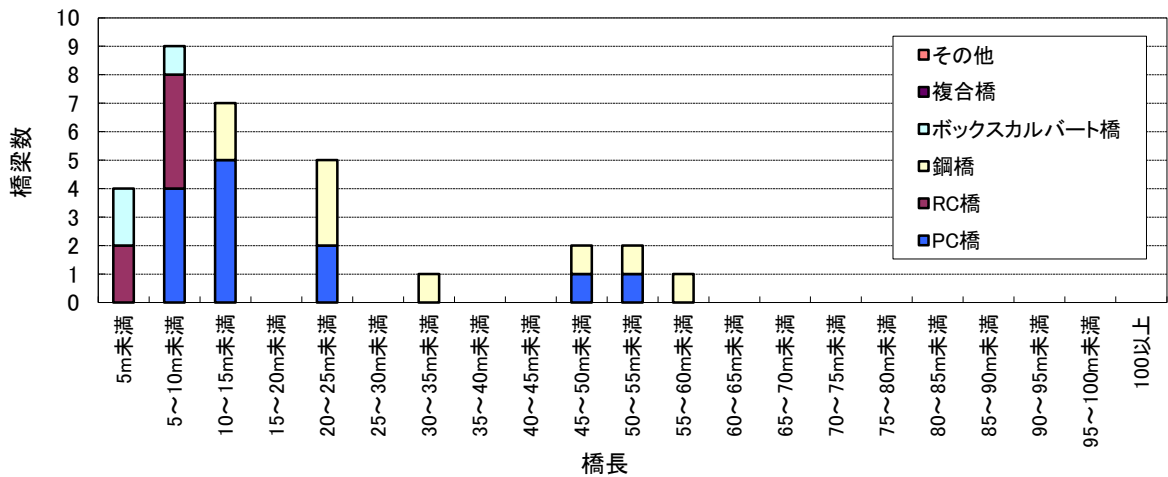
対象橋梁位置図 (計31橋)

経過年数別橋梁数



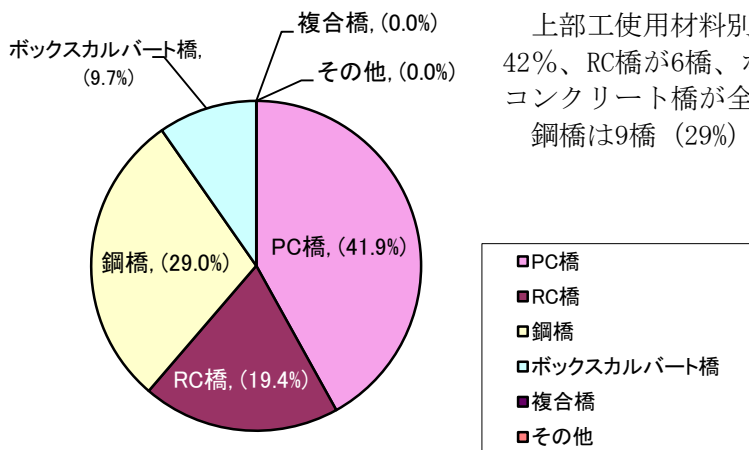
長寿命化修繕計画で対象としている31橋のうち、建設後50年以上を経過している橋梁は11橋あり、全体の35%を占めています。

橋長別橋梁数



長寿命化修繕計画で対象としている31橋のうち、10m未満の橋梁が13橋あり全体の42%を占めています。一方、40m以上の橋梁は5橋あり全体の16%を占めています。

上部工使用材料別橋梁数の比率



上部工使用材料別ではPC橋が13橋で全体の約42%、RC橋が6橋、ボックスカルバート橋が3橋でコンクリート橋が全体の71%を占めています。鋼橋は9橋 (29%) となっています。

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針 (2. 計画期間)

1) 健全度の把握の基本的な方針

(・老朽化対策における基本方針)

健全度の把握については、国土交通省道路局の「道路橋定期点検要領」（令和6年3月）に基づいて、専門技術者による5年に1回の定期点検及び健全性の診断や、必要に応じて行う詳細点検により、各部材の劣化や損傷の程度などを早期に把握します。

(・新技術等の活用方針)

定期点検における近接方法については、新技術情報提供システム（NETIS）や点検支援技術性能カタログなどを参考に、有用な新技術の活用を検討していきます。

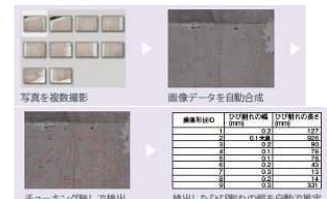
令和17年度までに実施される橋梁定期点検時に、損傷が軽微な小スパンの床版橋や溝橋のうち1橋程度は、画像解析及びAI診断等の新技術活用を検討し、点検費用10万円程度のコスト縮減及びとりまとめ作業の効率化を、また、交通規制を伴う橋梁点検車を用いる2橋程度については、ポールカメラ、自走式ロボットまたはドローンによるリモート点検を検討し、点検費用20万円程度のコスト縮減及び現場作業の効率化を図っていきます。



ポールカメラによる桁下高所の点検



ドローンによる桁下高所の点検



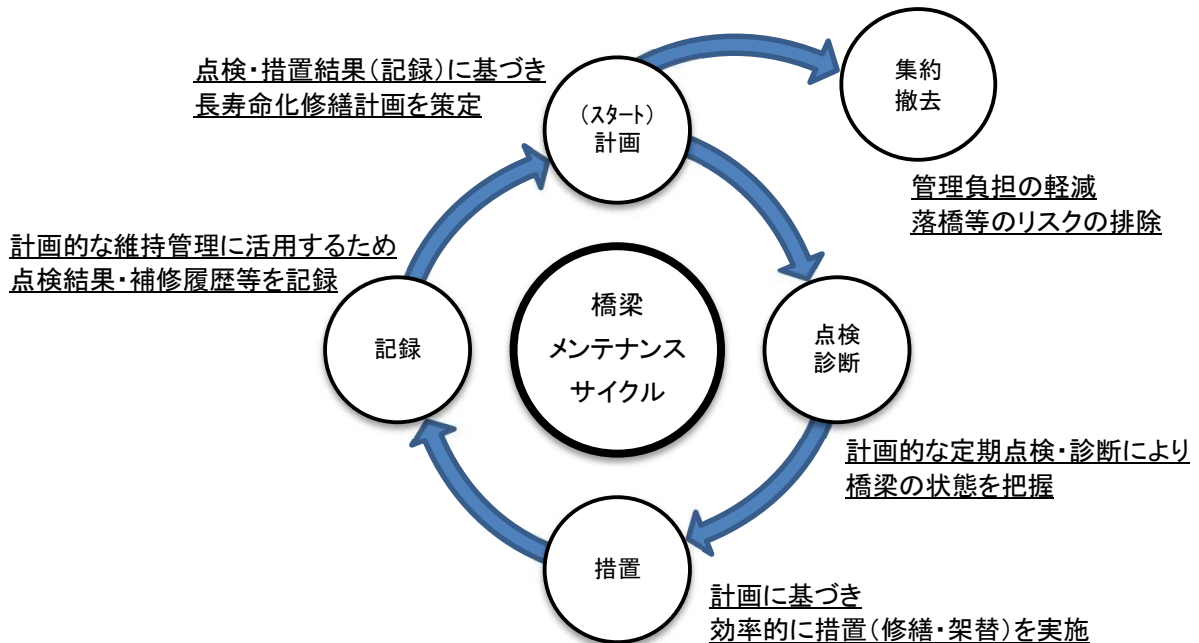
AI・画像診断

橋梁点検における新技術の活用例（国土交通省「点検支援技術性能カタログ」より引用）

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

利用者の安全性の確保及び橋梁を良好な状態に保つために、町職員及び委託業者によるパトロールを実施し、橋面及び排水柵の土砂清掃や舗装の軽微な補修等の日常的な維持管理を行います。

橋梁メンテナンスサイクル 概念図



3) 計画期間

5年に1回の定期点検結果を基に中長期的な予測を行い、今後50年間の橋梁長寿命化修繕計画を策定します。（計画期間：2026年～2075年）

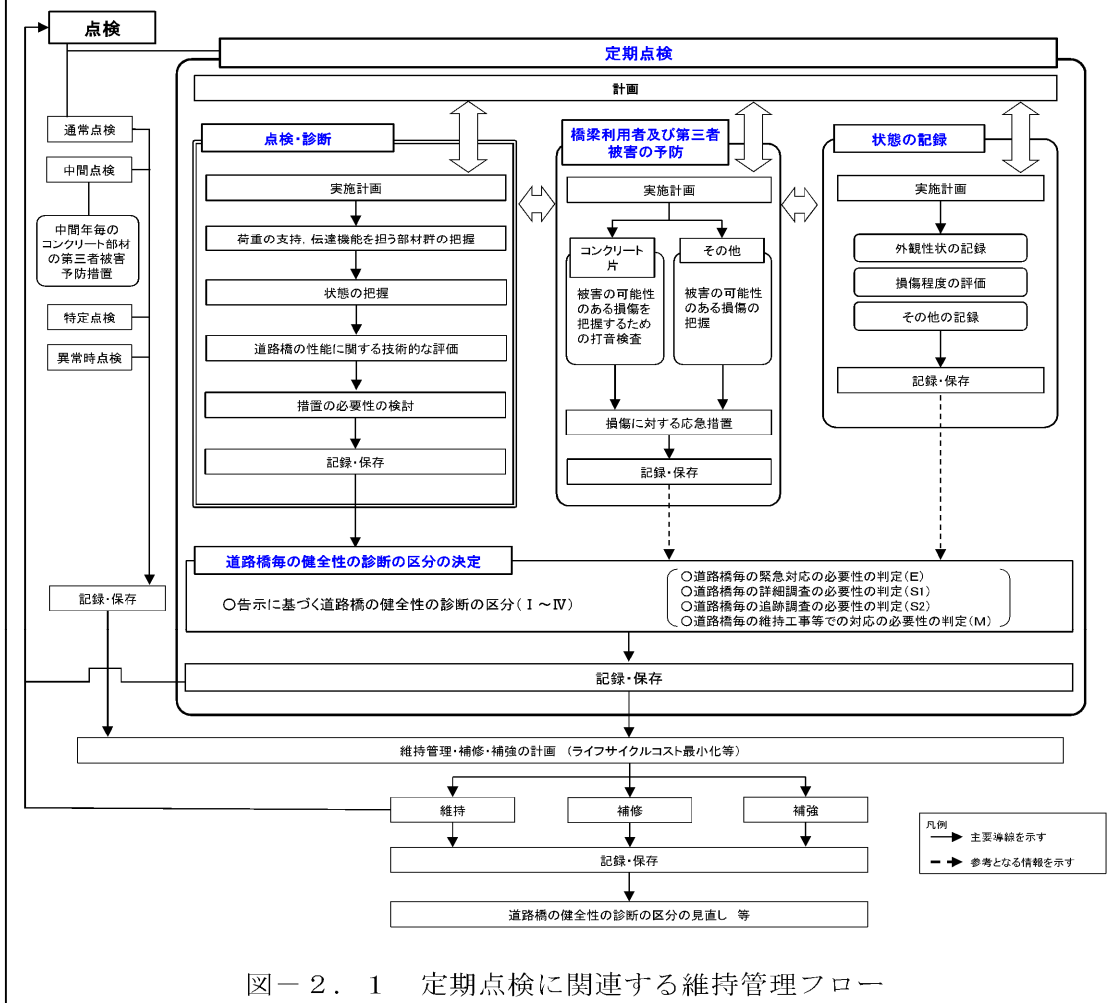
3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

(参考) 橋梁維持管理の基本的な考え方

「橋梁定期点検要領，第1章，2～4p，国土交通省 道路局 国道・技術課，令和6年7月」より引用

2. 定期点検の目的

- (1) 定期点検は，橋梁利用者や第三者への被害の回避，落橋など長期にわたる機能不全の回避，長寿命化への時宜を得た対応などの橋梁に係る維持管理を適切に行うため，道路橋の最新の状態を把握するとともに，次回の定期点検までの措置の必要性の判断を行ううえで必要な情報を得ることを目的とする。
- (2) 定期点検に関連する維持管理の標準的なフローは，図－2. 1 に示すとおりとする。



図－2. 1 定期点検に関連する維持管理フロー

定期点検の他に実施される点検

項目	定義
通常点検	損傷の早期発見を図るために、道路の通常巡回として実施する点検をいう。通常は、道路パトロールカー内からの目視を主体としている。
中間点検	定期点検を補うために、定期点検の中間年に実施する点検をいう。方法は、必ずしも近接目視を基本とせず、例えば既設の点検設備や路上・路下からの目視を基本として行うこともできる。
中間年毎のコンクリート部材の第三者被害予防措置	第三者被害の可能性の観点での「コンクリート片の落下」という特定の事象に着目して予防保全的な観点などから予め当該事象に応じた期間及び方法を定めて計画的かつ定期的に行う特定点検と、発見された損傷に対する応急措置をいう。
特定点検	塩害等の特定の事象を対象に、予め頻度を定めて実施する点検をいう。
異常時点検	地震、台風、集中豪雨、豪雪等の災害や大きな事故が発生した場合、橋梁に予期していなかった異常が発見された場合などに行う点検をいう。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針
(3. 対策の優先順位の考え方)

浅川町が管理する橋梁の中で、架設後30年以上を経過した橋梁は全体の80%以上を占めているため、将来的に一齐に架替時期を迎えることが予想されます。したがって、計画的かつ予防的な修繕対策の実施へと転換を図り、橋梁の寿命を100年以上とすることを目標とし、修繕及び架替えに要するコストを縮減します。

1) 管理区分の設定

修繕計画策定にあたり、橋梁の諸元情報（橋長や幅員等）や重要度を考慮した管理区分を橋梁毎に設定します。

管理区分の定義

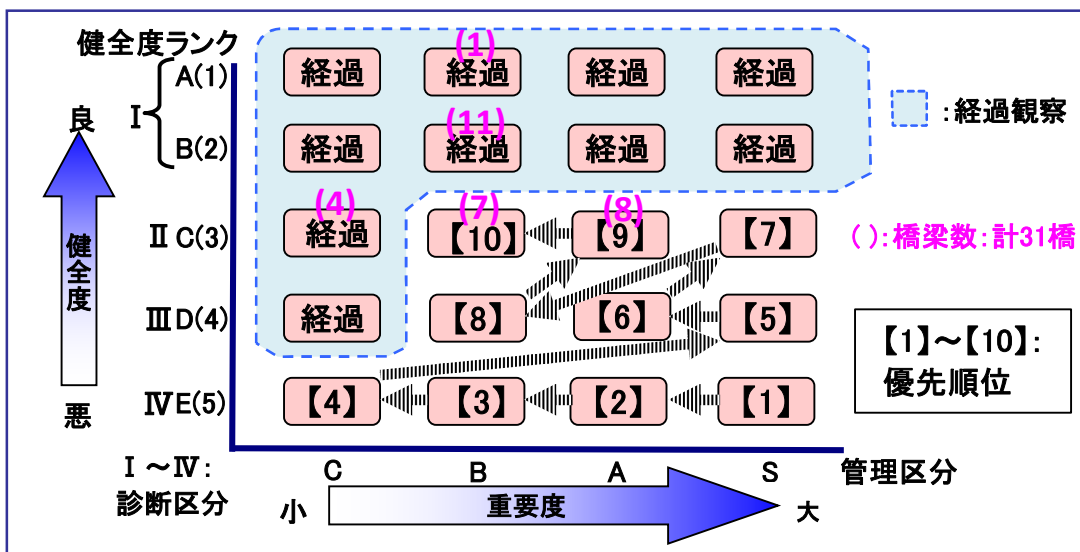
管理区分	該当橋梁	補修時期	寿命	点検方法		簡易予防保全	
				日常巡回 ※3	橋梁点検 (1回/5年) ※4	橋面洗浄	桁洗浄
S 本格予防保全型	・跨線橋 ・跨道橋 ・橋長100m以上 ・重要度(※1) 該当3つ	健全度ランクD(4) にしない	原則架替えは行わない	○	○	② ※5	②
A 予防保全型	重要度該当2つ	健全度ランクD(4) にしない	150年※2 (100年)	○	○	⑤	⑤
B 事後保全型	重要度該当0 または1つ	健全度ランクE(5) にしない	100年※2 (60年)	○	○		⑤
C 経過観察型	・重要度該当0 かつ ・カルバート橋 ・5m未満橋梁 ・仮橋 ・橋梁以外の形式	健全度ランクE(5) になるまで	耐用年数 まで	○	○		
備考	※1「重要度」 ①緊急輸送路 ②1,2級市町村道 ③バス路線 ④自治体の任意設定		※2実情に応じて適宜設定 ()は目安 特殊橋梁は橋梁ごとに設定	※3「日常巡回」は、排水溝の清掃及び沓座面の堆積土砂除去を実施(費用は計上せず) ※4橋梁点検費用は計上	※5簡易予防保全費用を橋梁ごとに計上する ②:2年に1回 ⑤:5年に1回		

(・費用の縮減に関する具体的な方針：集約・撤去について)

町の管理する橋梁について、維持管理費用の縮減を目的として集約・撤去を検討した結果、1・2級町道等の重要かつ利用者の多い路線であること、地区によっては山間部に位置している等により迂回路が無い、または、最短の迂回路を通行した場合でも約7.5km(15分)の迂回を要する路線があること等により、住民の社会活動や緊急時等に大きな影響を与えるため、現時点では集約・撤去を行うことが困難な状況となっています。ただし、今後の定期点検の結果及び周辺の状況や施設の利用状況をふまえて、再度検討を行っていきます。

2) 優先順位のつけ方

優先順位は以下の図により管理区分と主要部材の健全度の関係から決めるものとします。



3) 橋梁毎の点検結果 (4. 個別施設の状態等)

【定期点検結果】

浅川町は、令和6年度及び令和7年度に近接目視による定期点検及び橋梁毎の健全性の診断を行いました。橋梁毎の点検結果は以下のとおりです。

定期点検結果一覧 (計31橋)

優先順位	番号	橋梁名	橋長 (m)	径間数	上部工使用材料	上部工構造形式	車道幅員 (m)	竣工年	経過年	道路等級	管理区分	前回診断区分	今回診断区分	今回健全度ランク	部材種別 (主要部材)	補修履歴・主な損傷 (主要部材)
1	02	太田輪橋	47.30	2	PC橋	ボステン桁	7.03	1981	45	1級	B※	II	II	C(3)	床版, 下部工, 支承	ひびわれ, 欠損
2	05	岩下橋	10.00	1	PC橋	プレテン床版	5.00	1975	51	2級	B※	II	II	C(3)	主桁, 床版, 下部工, 支承	ひびわれ, 遊離石灰, 劣化
3	27	新屋橋	23.00	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	6.00	1984	42	その他	B※	II	II	C(3)	主桁, 床版, 支承	腐食, ひびわれ, 遊離石灰
4	04	青砥橋	53.16	2	PC橋	ボステン桁	7.50	1994	32	1級	B※	II	II	C(3)	下部工	ひびわれ
5	06	松ノ入橋	12.45	1	PC橋	プレテン床版	5.03	1974	52	2級	B※	II	II	C(3)	床版, 支承	遊離石灰, 劣化
6	11	附掛橋	24.80	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	5.00	1983	43	その他	B※	II	II	C(3)	主桁, 支承	腐食, 遊間異常
7	31	浅川橋	54.70	2	鋼溶接橋	I桁(不明)	7.00	2007	19	その他	B※	II	II	C(3)	床版	ひびわれ
8	26	堀川橋	14.97	1	H型鋼	H形鋼(非合成)	3.50	1980	46	その他	B※	II	II	C(3)	主桁, 横桁, 支承	腐食, 遊間異常
9	07	内畑橋	12.54	1	PC橋	プレテン床版	4.00	1975	51	その他	B	II	II	C(3)	主桁, 床版, 支承	ひびわれ, 遊離石灰, 劣化
10	08	川原田橋	21.88	1	PC橋	プレテン桁	6.05	1978	48	2級	B	II	II	C(3)	横桁	(補修済) ひび, うき, 定着
11	18	竹の葉橋	7.30	1	RC橋	RC床版橋(その他)	7.10	1970	56	1級	B	II	II	C(3)	下部工	(補修済) ひび, 遊離, 剥離
12	03	滝大川橋	59.50	2	鋼溶接橋	I桁(不明)	6.75	1998	28	その他	B	III	II	C(3)	下部工	(補修済) ひびわれ, 遊離
13	14	山森田橋	6.10	1	RC橋	RC床版橋(その他)	4.00	1974	52	2級	B	II	II	C(3)	下部工	(補修済) ひび, 遊離
14	21	鉢田橋	6.40	1	PC橋	プレテン床版	4.50	1988	38	その他	B	II	II	C(3)	下部工, 支承	ひび, 遊離, 剥離, 劣化
15	32	浄土橋	9.40	1	PC橋	プレテン床版	7.50	1998	28	その他	B	II	II	C(3)	下部工	ひびわれ
16	30	橋上沢橋	3.40	1	RC橋	RC溝橋(BOXカルバート)	9.00	2002	24	その他	C	II	II	C(3)	頂版, 側壁, 頂版・ベンチ	ひびわれ, 漏水・遊離, 欠損
17	19	梨子ノ草橋	4.60	1	RC橋	RC床版橋(その他)	3.50	1984	42	その他	C	II	II	C(3)	床版, 下部工, 支承	ひびわれ, 遊離石灰, 劣化
18	24	蛭川橋	2.82	1	RC橋	RC溝橋(BOXカルバート)	4.00	1978	48	その他	C	II	II	C(3)	頂版	ひびわれ
19	15	東今田橋	3.80	1	RC橋	RC床版橋(その他)	5.00	1981	45	その他	C	III	II	C(3)	下部工, 支承	(補修済) ひび, 劣化
20	09	舞台橋	21.15	1	PC橋	PC 床版橋(その他)	7.00	2001	25	2級	B	II	I	B(2)	床版	(見直し) 遊離石灰
21	17	湯治田橋	6.35	1	PC橋	プレテン床版	5.02	1965	61	その他	B	II	I	B(2)	主桁, 主版, 下部工	(見直し) ひびわれ, 欠損, 遊離
22	29	殿川橋	13.00	1	PC橋	プレテン床版	5.10	1967	59	その他	B	II	I	B(2)	主桁, 床版, 下部工	(補修済) ひび, 剥離, 遊離
23	28	入ノ作橋	10.15	1	PC橋	PC桁橋(その他)	3.00	1969	57	その他	B	II	I	B(2)	支承	(補修済) 劣化
24	23	美谷田橋	5.20	1	RC橋	RC溝橋(BOXカルバート)	4.00	1988	38	2級	B	II	I	B(2)	頂版	(見直し) ひびわれ, 鉄筋露出
25	01	小貫橋	46.00	2	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	5.00	1995	31	その他	B	II	I	B(2)	床版	(補修済) ひび, 遊離
26	22	八ノ堀田橋	6.40	1	RC橋	RC床版橋(その他)	3.40	1973	53	その他	B	I	I	B(2)	床版	ひびわれ
27	20	中田橋	6.40	1	RC橋	RC床版橋(その他)	4.00	1974	52	その他	B	I	I	B(2)	床版	剥離・鉄筋露出
28	16	古屋橋	8.35	1	PC橋	プレテン床版	5.00	1985	41	その他	B	I	I	B(2)	床版	遊離石灰
29	10	恵比寿宮橋	22.85	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	6.00	1982	44	その他	B	II	I	B(2)	下部工	(補修済) ひびわれ
30	25	大草川橋	13.90	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	4.00	1977	49	その他	B	II	I	B(2)	下部工	(補修済) ひびわれ
31	12	青葉橋	31.80	1	鋼溶接橋	I桁(不明)	4.00	1975	51	その他	B	I	I	A(1)	主部材	(補修済) 損傷なし

B※:管理区分Aに変更

定期点検による診断区分と修繕計画健全度ランクの関係 (計31橋)

健全性の診断の区分		定義	健全度ランク	判定区分	備考	該当橋梁数	割合
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態	A(1)	健全	損傷が認められない	1橋	3%
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、 予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態	B(2)	対策不要	損傷が軽微で補修を行う必要がない	11橋	35%
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じている可能性があり、 早期に措置を講ずべき状態	C(3)	状況に応じ早めに対策	状況に応じて補修を行う必要がある	19橋	61%
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、 緊急に措置を講ずべき状態	D(4)	早急に補修必要	速やかに補修を行う必要がある	0橋	0%
			E(5)	緊急対応の必要	緊急対策の必要がある	0橋	0%

計 31橋

4) 主要部材の損傷状況 (4. 個別施設の状態等)

【主要部材の損傷写真：診断区分[Ⅱ]・健全度ランク[C(3)]の橋梁(抜粋)】



橋梁右側



床版ひびわれ

太田輪橋：ポステンT桁橋、橋長：47.30m、2径間、1981年竣工(45年経過)
1級町道荒町太田輪線(迂回路有り)。床版下面に最大幅0.2mmの橋軸直角方向ひびわれが見られる。
診断区分：令和元年度[Ⅱ]→令和6年度[Ⅱ]。



橋梁右側



プレテン桁のひびわれ、間詰部の遊離石灰

岩下橋：プレテンI桁橋、橋長：10.00m、1径間、1975年竣工(51年経過)
2級町道中里松ノ入線(迂回路有り)。プレテン桁下面に最大幅0.3mmの橋軸方向のひびわれ、間詰部に遊離石灰が見られる。
診断区分：令和2年度[Ⅱ]→令和7年度[Ⅱ]。



橋梁右側



桁端部、支承の腐食

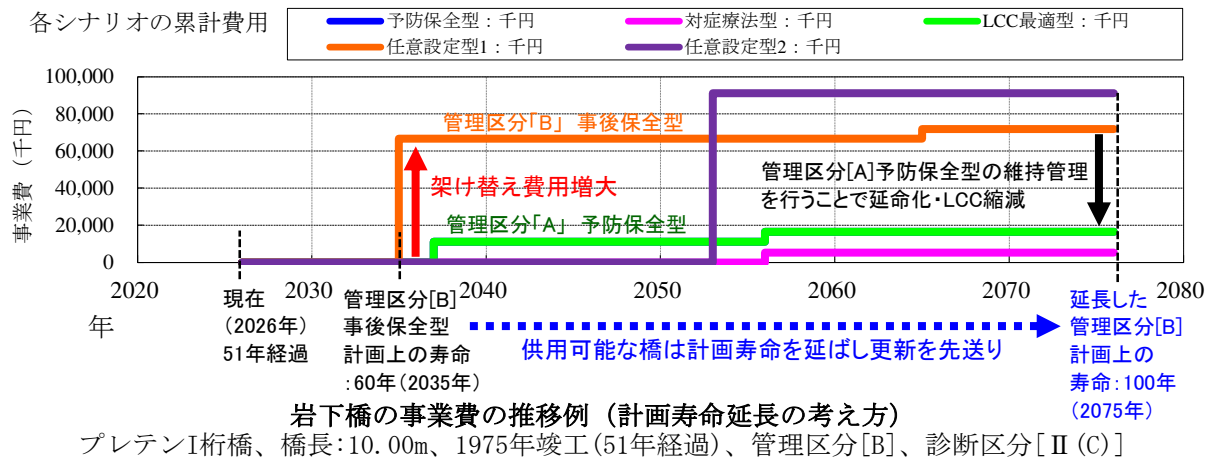
堀川橋：鋼H桁橋、橋長：14.97m、1径間、1980年竣工(46年経過)
町道板倉前平田線(迂回路有り)。主桁端部及び上下部接続部(支承部)に塗膜の劣化が見られ、錆が発生している。
診断区分：令和元年度[Ⅱ]→令和6年度[Ⅱ]。

5) 長寿命化修繕計画上の寿命設定について

修繕計画における計画上の寿命設定(計画寿命)の目安として、通常は管理区分[B](事後保全型)の橋梁の計画寿命を60年、管理区分[A](予防保全型)の計画寿命を100年としています。計画寿命に達した場合は更新(架け替え)の必要性和その費用について検討が必要です。

浅川町では管理区分[B]に該当し供用後50年以上経過した橋梁は11橋あり、これらは10年以内に計画寿命を迎えることとなりますが、町の橋梁は現時点で全て診断区分が[I]または[II]であり、計画寿命を迎えたとしても当面供用は可能であると考えられます。

以上をふまえ、管理区分[B]の計画寿命を100年に、併せて管理区分[A](予防保全型)の計画寿命を150年に延長して、更新時期の先延ばし及びLCCの縮減を図りました。



6) 橋梁補修工事の実施状況について

浅川町では、定期点検の結果をふまえ、早期対策が必要な診断区分[III]及び予防保全対策が必要な診断区分[II]と判定された11橋について、橋梁の延命化を図ると共に、安全で円滑な交通の確保、沿道や第三者への被害の防止を図るために、橋梁補修工事を実施しました。

補修工事が終了した橋梁については、工事後に定期点検及び診断を行い、健全度の向上及び補修工事の効果が得られていることを確認しています。

【1巡目点検後(平成28年度～平成30年度)に橋梁補修工事実施(：主な補修箇所)】

- ・殿川橋 [プレテンI桁橋 1967年竣工(59年経過)] : 桁・床版、伸縮装置
- ・竹の葉橋 [RC床版橋 1970年竣工(56年経過)] : 床版、橋台、伸縮装置
- ・山森田橋 [RC床版橋 1974年竣工(52年経過)] : 床版、橋台、伸縮装置
- ・青葉橋 [鋼I桁橋 1975年竣工(51年経過)] : 桁・支承(鋼部材)、床版、伸縮装置
- ・川原田橋 [プレテンI桁橋 1978年竣工(48年経過)] : 床版、橋台、伸縮装置

【2巡目点検後(令和2年度～令和5年度)に橋梁補修工事実施(：主な補修箇所)】

- ・入ノ作橋 [プレテンI桁橋 1969年竣工(57年経過)] : 桁・床版、橋台
- ・大草川橋 [鋼H桁橋 1977年竣工(49年経過)] : 桁・支承(鋼部材)、床版、伸縮装置
- ・東今田橋 [RC床版橋 1981年竣工(45年経過)] : 床版、橋台、伸縮装置
- ・恵比寿宮橋 [鋼H桁橋 1982年竣工(44年経過)] : 桁・支承(鋼部材)、床版、伸縮装置
- ・小貫橋 [鋼H桁橋(2径間) 1995年竣工(31年経過)] : 床版、橋脚、伸縮装置
- ・滝大川橋 [鋼I桁橋(2径間) 1995年竣工(31年経過)] : 横桁(鋼部材)、床版



入ノ作橋: プレテンI桁橋
上・下部工の断面修復等を実施
診断区分: 補修前[II]→後[I]



東今田橋: RC床版橋
下部工の断面修復等を実施
診断区分: 補修前[III]→後[II]



青葉橋: 鋼I桁橋
鋼部材・支承の塗装塗替等を実施
診断区分: 補修前[II]→後[I]

補修工事実施済の橋梁 (抜粋)

7) 管理区分の変更及び優先順位の変更について

以下の診断区分[Ⅱ]、管理区分[B](事後保全型)の8橋は、重要性の高い条件に複数該当しており、町として重要な橋梁と位置付けられるため、管理区分[A](予防保全型)に変更し、優先的に予防保全型の維持管理を行って、延命化及びLCCの縮減を図っていきます。

【重要性の高い条件】

- ①道路等級1級または2級 ②車道幅員6m以上(2車線相当) ③迂回路距離5km以上
④架設後経過40年以上 ⑤橋長15m以上



起点 終点

橋梁右側



床版のひびわれ(橋軸直交)



橋脚のひびわれ(鉛直)

太田輪橋 (ポステンT桁橋：判定区分[Ⅱ]) 【該当条件】 ①1級町道荒町太田輪線
②車道幅員：7m ③迂回路距離：5km ④1981年竣工(45年経過) ⑤橋長：47.3m(2径間)



起点 終点

橋梁右側



プレテン桁のひびわれ(橋軸方向)、遊離石灰



下部工の遊離石灰

岩下橋 (プレテンI桁橋：判定区分[Ⅱ])

【該当条件】 ①2級町道中里松ノ入線 ③迂回路距離：5km ④1975年竣工(51年経過)



起点 終点

橋梁右側



床版のひびわれ(橋軸直交)



桁端部、支承の腐食

新屋橋 (鋼H桁橋、町道城山再見形線、迂回路有り：判定区分[Ⅱ])

【該当条件】 ②車道幅員：6m ④1984年竣工(42年経過) ⑤橋長：23.0m



起点 終点

橋梁右側



橋脚のひびわれ(二方向)



橋台のひびわれ(鉛直)

青砥橋 (ポステンT桁橋、迂回路有り：判定区分[Ⅱ])

【該当条件】 ①1級町道里白石石原線 ②車道幅員：7.5m ⑤橋長：53.2m(2径間)

優先的に予防保全型の維持管理を行う橋梁 (1/2)



起点

終点

橋梁右側



床版の遊離石灰



支承の劣化、下部工の漏水

松ノ入橋（プレテンI桁橋：判定区分〔Ⅱ〕）

【該当条件】①2級町道中里松ノ入線 ③迂回路距離:5km ④1974年竣工(52年経過)



起点

終点

橋梁右側



主桁の腐食



桁端部、支承の腐食

附掛橋（鋼H桁橋、町道東大畑美谷田線、迂回路有り：判定区分〔Ⅱ〕）

【該当条件】④1983年竣工(43年経過) ⑤橋長:24.8m



起点

終点

橋梁右側



床版のひびわれ(橋軸直交)、遊離石灰



橋台のひびわれ(鉛直)

浅川橋（鋼I桁橋、町道滝ノ台線、迂回路有り：判定区分〔Ⅱ〕）

【該当条件】②車道幅員:7m ⑤橋長:54.7m(2径間)



起点

終点

橋梁右側



主桁、横桁の腐食(下フランジ)



桁端部、支承の腐食

堀川橋（鋼H桁橋、町道板倉前平田線、迂回路有り：判定区分〔Ⅱ〕）

【該当条件】④1980年竣工(46年経過) ⑤橋長:15.0m

優先的に予防保全型の維持管理を行う橋梁（2/2）

8) 全橋梁の優先順位一覧表

上記を考慮した橋梁全体の優先順位一覧表は添付の通りです。

5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期 (5. 対策内容と実施時期)
 (・ 構造物の諸元、直近の点検結果及び次回点検年度)
 (・ 対策内容、対策の着手・完了予定年度)
 (・ 対策に係る全体概算事業費) (6. 対策費用)

様式1-2に、直近10年間の概ねの計画を示します。

補修工法の選定にあたっては、NETIS等に登録され活用促進技術に指定されている新技術について、従来工法とのライフサイクルコストの比較検討を行った後に積極的に採用し、維持管理費用の縮減や再劣化防止等に努めていきます。

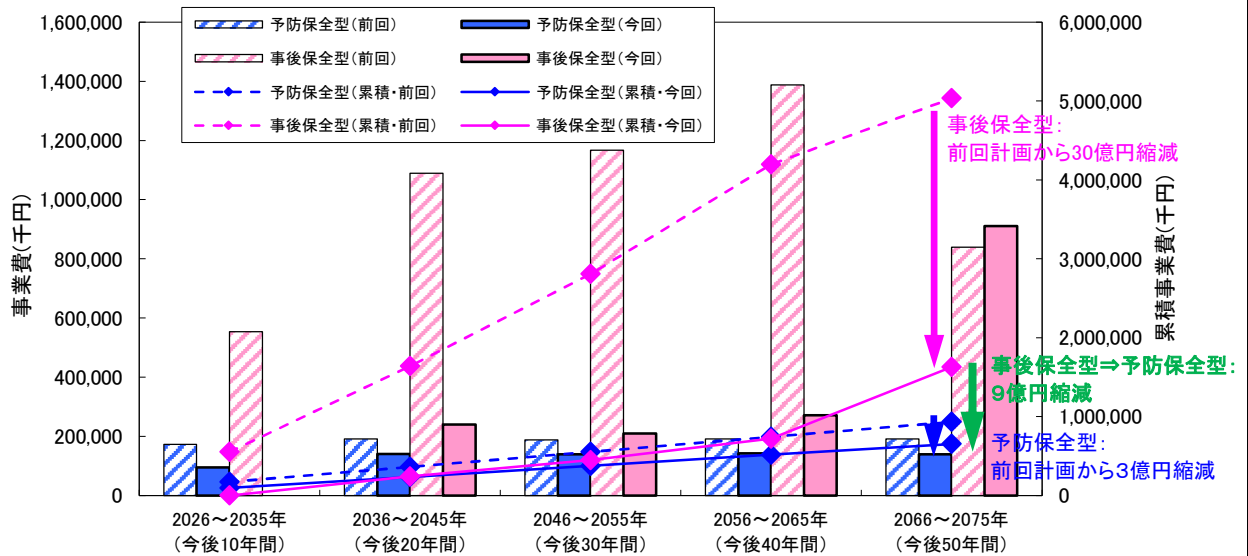
- 活用促進技術に指定されている新技術の例
 - ・ 鋼部材の塗装 (錆転換型防食塗装)。
 - ・ コンクリート部材の補修 (断面修復工、表面含浸工)。
 - ・ 伸縮装置の止水・漏水対策、取替。

様式1-2、優先順位一覧表に概算の事業費を示します。

6. 長寿命化修繕計画による効果

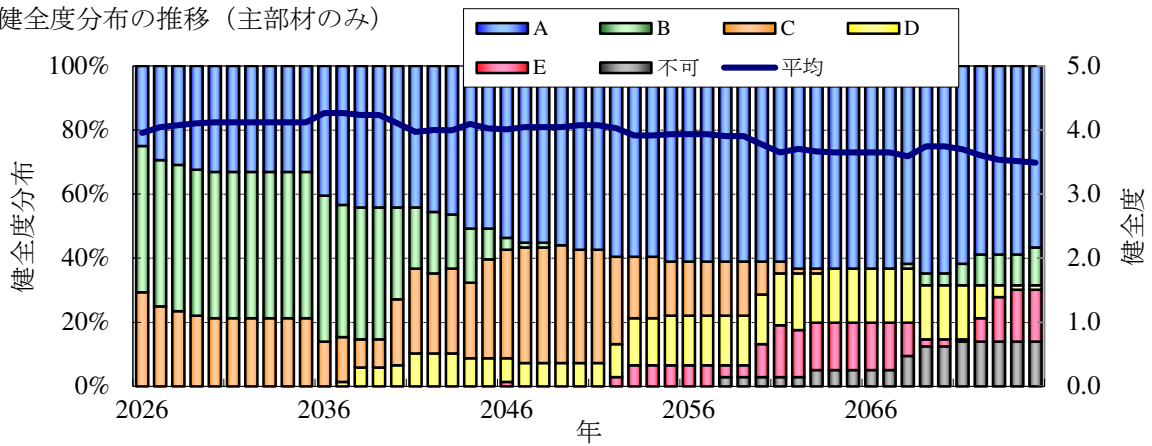
浅川町が管理する橋梁について、点検結果を基に今後50年間の予算シミュレーションを行い、以下の結果が得られました。

長寿命化修繕計画を策定する31橋について、年間の予算制約額を0.15億円とし今後50年間の事業費を比較すると、従来の事後保全面型(対症療法型)が16億円に対し、長寿命化修繕計画の実施による予防保全面型が7億円となり、コスト縮減効果は9億円(56%減)となります。



また、計画的な修繕を実施することにより、良好な健全度を維持することが可能となり、損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性及び信頼性が確保されます。

健全度分布の推移 (主部材のみ)



7. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

1) 計画策定担当部署
浅川町 建設水道課 tel:0247-36-1184

2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者
日本大学 工学部 土木工学科 教授 岩城 一郎

【様式1-2】

5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替時期（直近10年間）

年間予算額：0.15億円

凡例： ← → 対策を実施すべき時期、補修部材及び補修内容を示す。

橋梁名	道路種別	路線名	橋長(m)	架設年度	供用年数	最新点検年次	最新点検結果	管理区分	対策の内容・時期 ※1										合計(千円) ※2,3			
									R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033	R16 2034	R17 2035				
太田輪橋	1級	荒町太田輪線	47.30	1981	45	R6	II	A		← →												3,533
岩下橋	2級	中里松ノ入線	10.00	1975	51	R7	II	A			← →											3,337
新屋橋	その他	城山再見形線	23.00	1984	42	R7	II	A			← →											13,158
青砥橋	1級	里白石石原線	53.16	1994	32	R6	II	A		← →												7,137
松ノ入橋	2級	中里松ノ入線	12.45	1974	52	R7	II	A				← →										4,839
附掛橋	その他	東大畑美谷田線	24.80	1983	43	R6	II	A		← →												2,735
浅川橋	その他	滝ノ台線	54.70	2007	19	R7	II	A										← →				28,277
堀川橋	その他	板倉前平田線	14.97	1980	46	R6	II	A		← →												986
内畑橋	その他	御前沢余郷根線	12.54	1975	51	R7	II	B														
川原田橋	2級	中里松ノ入線	21.88	1978	48	R6	II	B														
竹の葉橋	1級	里白石石原線	7.30	1970	56	R6	II	B														
滝大川橋	その他	滝輪背戸谷地線	59.50	1998	28	R6	II	B														
山森田橋	2級	大窪橋上沢線	6.10	1974	52	R6	II	B														
躰田橋	その他	躰田塚本線	6.40	1988	38	R6	II	B														
浄土橋	その他	新町線	9.40	1998	28	R7	II	B														13,130
橋上沢橋	その他	東大畑山白石線	3.40	2002	24	R7	II	C														
梨子ノ草橋	その他	梨子ノ草古屋敷線	4.60	1984	42	R7	II	C														
蛭川橋	その他	根岸中里線	2.82	1978	48	R7	II	C														
東今田橋	その他	宮下下菖蒲庭線	3.80	1981	45	R6	II	C														
舞台橋	2級	美谷田中里線	21.15	2001	25	R6	I	B														9,862
湯治田橋	その他	出シ寺ノ前線	6.35	1965	61	R6	I	B														
殿川橋	その他	中里線	13.00	1967	59	R6	I	B														
入ノ作橋	その他	内畑線	10.15	1969	57	R6	I	B														
美谷田橋	2級	美谷田中里線	5.20	1988	38	R6	I	B														
小貫橋	その他	竹ノ内東ノ町線	46.00	1995	31	R6	I	B														
八ツ堀田橋	その他	美谷田線	6.40	1973	53	R7	I	B														
中田橋	その他	躰田中田線	6.40	1974	52	R7	I	B														
古屋橋	その他	古屋菖蒲庭線	8.35	1985	41	R7	I	B														7,476
恵比寿宮橋	その他	恵比寿宮線	22.85	1982	44	R7	I	B														
大草川橋	その他	弥五郎内上塙線	13.90	1977	49	R7	I	B														
青葉橋	その他	月芥城山線	31.80	1975	51	R7	I	B														
合 計 (千円) ※2,3																						
									14,391	13,157	3,337	4,839	13,130	9,862	7,476	14,117	14,160					

※1：対策の内容・時期は概ねの目安であり、実際の事業計画とは異なる場合がある。

※2：費用は工事費のみを計上しているため、点検費・設計費については別途計上すること。

※3：工事費は概算であるため、工事発注の際は別途積算すること。

優先順位一覧 制約0.15億円 浅川町

計画期間：2026年(令和8年)～2025年 50年間

■ :健全度E(5) ■ :健全度B(2)
■ :健全度D(4) ■ :健全度A(1)
■ :健全度C(3)

番号	橋梁名	諸元							重要度評価指標							総合評価指標				部材健全度		優先順位指標 (A+100-B)	優先順位	優先順位区分	管理区分	管理区分内訳										余寿命 (年)	今後50年補修費用			橋梁名		
		橋長 (m)	径間数	上部工 使用材料	上部工 構造形式	車道 幅員 (m)	竣工 年	経過 年	緊急 輸送路	道路 等級	緊急 輸送路	橋長	車道 幅員	道路 区分	バス 路線	交差 条件	重要度 合計 (A)	耐荷性	災害 抵抗性	走行 安全性	平均 (B)					部材 種別	健全度 ランク	緊急 輸送路	道路 区分	バス 路線	該当 数	評価 ①	交差 条件	評価 ②	橋長 5m未満		カルバート 特異形式	評価 ③	今後5年 (百万円)		残り (百万円)	合計 (百万円)
02	太田輪橋	47.30	2	PC橋	ボステンT桁	7.03	1981	45	-	1級	0	5	10	10	0	0	25	35.0	30.0	45.0	36.7	床版	C(3)	88.3	1	9	A	-	○	-	1	B	-	-	-	-	B	50以上	3.5	119.9	123.4	太田輪橋
05	岩下橋	10.00	1	PC橋	プレテン床版	5.00	1975	51	-	2級	0	0	5	5	0	0	10	10.0	20.0	40.0	23.3	主部材	C(3)	86.7	2	9	A	-	○	-	1	B	-	-	-	-	B	50以上	3.3	7.9	11.3	岩下橋
27	新屋橋	23.00	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	6.00	1984	42	-	その他	0	5	10	0	0	0	15	15.0	45.0	40.0	33.3	主部材	C(3)	81.7	3	9	A	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	50以上	13.2	0.5	13.6	新屋橋
04	青砥橋	53.16	2	PC橋	ボステンT桁	7.50	1994	32	-	1級	0	10	10	10	0	0	30	50.0	35.0	70.0	51.7	下部工	C(3)	78.3	4	9	A	-	○	-	1	B	-	-	-	-	B	50以上	7.1	19.8	26.9	青砥橋
06	松ノ入橋	12.45	1	PC橋	プレテン床版	5.03	1974	52	-	2級	0	0	5	5	0	0	10	40.0	55.0	45.0	46.7	床版	C(3)	63.3	5	9	A	-	○	-	1	B	-	-	-	-	B	50以上	4.8	6.6	11.4	松ノ入橋
11	附掛橋	24.80	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	5.00	1983	43	-	その他	0	5	5	0	0	0	10	30.0	50.0	65.0	48.3	主部材	C(3)	61.7	6	9	A	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	50以上	2.7	10.8	13.5	附掛橋
31	浅川橋	54.70	2	鋼溶接橋	I桁(不明)	7.00	2007	19	-	その他	0	10	10	0	0	0	20	65.0	65.0	50.0	60.0	床版	C(3)	60.0	7	9	A	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	50以上	0.0	28.9	28.9	浅川橋
26	堀川橋	14.97	1	H型鋼	H形鋼(非合成)	3.50	1980	46	-	その他	0	0	5	0	0	0	5	30.0	50.0	65.0	48.3	主部材	C(3)	56.7	8	9	A	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	50以上	1.0	4.6	5.6	堀川橋
07	内畑橋	12.54	1	PC橋	プレテン床版	4.00	1975	51	-	その他	0	0	5	0	0	0	5	15.0	45.0	40.0	33.3	主部材	C(3)	71.7	9	10	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	49	0.0	127.8	127.8	内畑橋
08	川原田橋	21.88	1	PC橋	プレテンT桁	6.05	1978	48	-	2級	0	5	10	5	0	0	20	30.0	50.0	65.0	48.3	主部材	C(3)	71.7	10	10	B	-	○	-	1	B	-	-	-	-	B	50以上	0.0	23.9	23.9	川原田橋
18	竹の葉橋	7.30	1	RC橋	RC床版橋(その他)	7.10	1970	56	-	1級	0	0	10	10	0	0	20	75.0	45.0	75.0	65.0	下部工	C(3)	55.0	11	10	B	-	○	-	1	B	-	-	-	-	B	44	0.0	9.4	9.4	竹の葉橋
03	滝大川橋	59.50	2	鋼溶接橋	I桁(不明)	6.75	1998	28	-	その他	0	10	10	0	0	0	20	75.0	45.0	75.0	65.0	下部工	C(3)	55.0	12	10	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	50以上	0.0	4.4	4.4	滝大川橋
14	山森田橋	6.10	1	RC橋	RC床版橋(その他)	4.00	1974	52	-	2級	0	0	5	5	0	0	10	75.0	45.0	75.0	65.0	下部工	C(3)	45.0	13	10	B	-	○	-	1	B	-	-	-	-	B	48	0.0	5.6	5.6	山森田橋
21	躰田橋	6.40	1	PC橋	プレテン床版	4.50	1988	38	-	その他	0	0	5	0	0	0	5	75.0	45.0	75.0	65.0	下部工	C(3)	40.0	14	10	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	50以上	0.0	6.0	6.0	躰田橋
32	浄土橋	9.40	1	PC橋	プレテン床版	7.50	1998	28	-	その他	0	0	10	0	0	0	10	90.0	50.0	100.0	80.0	下部工	C(3)	30.0	15	10	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	50以上	0.0	28.4	28.4	浄土橋
30	橋上沢橋	3.40	1	RC橋	RC溝橋(BOXカルバート)	9.00	2002	24	-	その他	0	0	10	0	0	0	10	60.0	40.0	50.0	50.0	床版	C(3)	60.0	16	経	C	-	-	-	0	C	-	-	○	○	C	50以上	0.0	9.9	9.9	橋上沢橋
19	梨子ノ草橋	4.60	1	RC橋	RC床版橋(その他)	3.50	1984	42	-	その他	0	0	5	0	0	0	5	60.0	40.0	50.0	50.0	床版	C(3)	55.0	17	経	C	-	-	-	0	C	-	-	○	-	C	50以上	0.0	6.4	6.4	梨子ノ草橋
24	蛭川橋	2.82	1	RC橋	RC溝橋(BOXカルバート)	4.00	1978	48	-	その他	0	0	5	0	0	0	5	65.0	65.0	50.0	60.0	床版	C(3)	45.0	18	経	C	-	-	-	0	C	-	-	○	○	C	50以上	0.0	0.0	0.0	蛭川橋
15	東今田橋	3.80	1	RC橋	RC床版橋(その他)	5.00	1981	45	-	その他	0	0	5	0	0	0	5	75.0	45.0	75.0	65.0	下部工	C(3)	40.0	19	経	C	-	-	-	0	C	-	-	○	-	C	50以上	0.0	4.8	4.8	東今田橋
09	舞台橋	21.15	1	PC橋	PC床版橋その他	7.00	2001	25	-	2級	0	5	10	5	0	0	20	80.0	70.0	75.0	75.0	床版	B(2)	45.0	20	経	B	-	○	-	1	B	-	-	-	-	B	50以上	0.0	29.6	29.6	舞台橋
17	湯治田橋	6.35	1	PC橋	プレテン床版	5.02	1965	61	-	その他	0	0	5	0	0	0	5	55.0	60.0	70.0	61.7	主部材	B(2)	43.3	21	経	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	39	0.0	8.8	8.8	湯治田橋
29	殿川橋	13.00	1	PC橋	プレテン床版	5.10	1967	59	-	その他	0	0	5	0	0	0	5	55.0	60.0	70.0	61.7	主部材	B(2)	43.3	22	経	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	41	0.0	5.6	5.6	殿川橋
28	入ノ作橋	10.15	1	PC橋	PC桁橋(その他)	3.00	1969	57	-	その他	0	0	5	0	0	0	5	55.0	60.0	70.0	61.7	主部材	B(2)	43.3	23	経	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	43	0.0	3.4	3.4	入ノ作橋
23	美谷田橋	5.20	1	RC橋	RC溝橋(BOXカルバート)	4.00	1988	38	-	2級	0	0	5	5	0	0	10	80.0	70.0	75.0	75.0	床版	B(2)	35.0	24	経	B	-	○	-	1	B	-	-	-	○	C	50以上	0.0	0.9	0.9	美谷田橋
01	小貫橋	46.00	2	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	5.00	1995	31	-	その他	0	5	5	0	0	0	10	80.0	70.0	75.0	75.0	床版	B(2)	35.0	25	経	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	50以上	0.0	107.7	107.7	小貫橋
22	八ツ堀田橋	6.40	1	RC橋	RC床版橋(その他)	3.40	1973	53	-	その他	0	0	5	0	0	0	5	80.0	70.0	75.0	75.0	床版	B(2)	30.0	26	経	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	47	0.0	3.5	3.5	八ツ堀田橋
20	中田橋	6.40	1	RC橋	RC床版橋(その他)	4.00	1974	52	-	その他	0	0	5	0	0	0	5	80.0	70.0	75.0	75.0	床版	B(2)	30.0	27	経	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	48	0.0	4.7	4.7	中田橋
16	古屋橋	8.35	1	PC橋	プレテン床版	5.00	1985	41	-	その他	0	0	5	0	0	0	5	80.0	70.0	75.0	75.0	床版	B(2)	30.0	28	経	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	50以上	0.0	15.0	15.0	古屋橋
10	恵比寿宮橋	22.85	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	6.00	1982	44	-	その他	0	5	10	0	0	0	15	95.0	75.0	100.0	90.0	下部工	B(2)	25.0	29	経	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	50以上	0.0	0.0	0.0	恵比寿宮橋
25	大草川橋	13.90	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	4.00	1977	49	-	その他	0	0	5	0	0	0	5	95.0	75.0	100.0	90.0	下部工	B(2)	15.0	30	経	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	50以上	0.0	0.0	0.0	大草川橋
12	青葉橋	31.80	1	鋼溶接橋	I桁(不明)	4.00	1975	51	-	その他	0	5	5	0	0	0	10	100.0	100.0	100.0	100.0	主部材	A(1)	10.0	31	経	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	49	0.0	0.0	0.0	青葉橋

※1：費用は工事費のみを計上しているため、点検費・設計費については別途計上すること。
 ※2：工事費は概算であるため、工事発注の際は別途積算すること。